

1 自己評価及び外部評価結果(1丁目ユニット)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370500779		
法人名	社会福祉法人 大谷会		
事業所名	グループホーム おおたに(一丁目ユニット)		
所在地	岩手県花巻市湯口字松原55番地23		
自己評価作成日	平成25年8月28日	評価結果市町村受理日	平成26年1月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?act=on_kouhou_detail_2013_022_kihon=true&lgvosvoQd=0370500779-00&PrfCd=03&VerSiOnQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

山や川、田園に囲まれた自然あふれる、ゆったりとした環境にある。母体の特別養護老人ホームが隣接しており、24時間連絡が取れ日常的にバックアップ体制が取れている。2ユニット間の連携で行事や日々の活動を行っている。季節ごとのバスハイクや母体特養でのバイキング食等の行事に参加する事で日々の生活の楽しみや生活空間の拡大を図っている。今年度は入所者の入れ替えによる人的環境の変化があるが、利用者同士の交流や家族との交流を通し、利用者が施設に慣れ、その人らしく生活できるよう支援している。体操や散歩で体を動かし日中の活動を行うことで夜間の安眠を促している。庭の花壇の手入れやプランターの野菜作り、収穫を楽しみにしている。地域との連携では、ボランティアや防災訓練で協力をいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・運営理念「住み慣れた地域で尊厳ある人生を、その人らしく豊かに安心して暮らせる場所」と、それを具体化した基本方針を一丁目・二丁目の全職員が毎朝唱和し徹底して把握し共有され、日々の業務に当たっている。穏やかで温かい雰囲気がいっぱいである。・母体の特別養護老人ホームを背に一丁目・二丁目の2ユニット体制のグループホームで、全ての面でバックアップ体制が取られており、互いに相乗効果があり、安心感が得られる。ホームの環境も四季折々の景色が眺められる恵まれた環境下にある。・地域との交流も活発で多彩なボランティアグループ(おやつ・野菜・手工芸・みこし)などが来訪し更なる活気の源になっている。・事務室の職員の机上には日常使われる連絡先の一覧表や基本方針などが添付され、容易に役立てられるように準備されている。・両ユニットに通じる広く長い廊下の横面に歩く目標距離(10m・20m・30m)が記され、自ら進んで屋内ウォーキングを楽しめるように工夫されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域で尊厳ある人生をその人らしく豊かに安心して暮らせる場所」を運営理念とし、朝のミーティングで唱和し、ホールなど目につく所に張り出している。ケアプラン作成時にも、理念に沿って利用者の出来ることを考え、職員で共有し実践している。	職員全員で話し合って決めた理念と、それを具体化した基本方針を毎朝唱和し、互いに意識付けをしているだけに、管理者と職員一人ひとりが、完全に内容を把握し共有され、見事に日々のケアに反映されている。年度初めに、職員間で内容を検討している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域老人クラブによる花壇作りや草取り、ボランティアによる手工芸やおやつ作り、地区子供会との交流会を通じて交流している。	さくらの会・どんとはれ会・花と緑の会・子供会などによる、多彩なボランティア(おやつ作り・野菜作り・手工芸・みこしの来訪)等により賑やかに交流されている。自治会には加入していないが、散歩・買い物等では、日常、地域の方々とは挨拶・会話を楽しまれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所申込の来訪者の相談や認知症の対応への家族やケアマネジャーの問い合わせに答えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、利用者の生活状況報告や家族アンケートの結果等報告し、委員の方々から意見をいただいている。会議内容は、議事録を作り、職員に回覧しケアに生かしている。	利用者の生活状況・事業所の取り組み内容・家族からの市に対する質問・防災など多角的に約1時間程度話し合われてるが、事業所としては、今後、その都度テーマを設けてさらに効果的な会議にしたいと検討している。その中で防災の件などでは、消防・警察等への声掛けも考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて、市の介護保険の動向や情報を知らせて頂いている。また、包括支援センター職員との連携協力も取っている。	日頃、市の担当職員に広報や電話などで事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、連携を図っている。また、市の担当職員や包括支援センター職員が推進会議に出席され現状を見てもらい協力関係を築いている。地震や台風の際にも安否確認の連絡を頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会で学んできた事を内部研修会で伝達し拘束を行わないケアに取り組んでいる。玄関は日中は施錠せず、外に出たい利用者には、見守りしながら付き添いしている。	時折家庭の事を思い出して外に出たがる利用者があるが、その時は家族に連絡し、本人に直接電話して頂いたり、また家族から足を運んでいただきお話をし、安心することもある。外部研修で学んだことを内部研修で全職員に研修伝達し、拘束(言葉の拘束も含む)についての話し合いは徹底して行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修で学んできた事を内部研修で職員で共有し、ケアの中で虐待につながる事がないか注意しあい、虐待防止に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(一丁目ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会を通して学び、利用者や家族に必要時活用出来る様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に利用者家族に重要事項説明書を提示し、疑問点を聞き、その都度必要な説明を行っている。制度改正等による内容変更の都度、同意を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関口に意見箱を設置している。また、家族アンケートや面会時、家族の意見を頂き、支援に繋げている。アンケート内容等は、運営推進会議で報告している。	母の日に家族会を行い、その機会にアンケートを年一回記入して頂き、意見・要望を頂いている。また、面会に来られた際にも、気楽な気持ちで述べられるような配慮もしている。その結果はミーティング時に話し合い支援に反映させている。例としては、居室の入り口に迷わない様に各利用者の写真を掲示)などがある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや記録等の時間に職員の話し合いの時間を持ち、業務改善につなげている。	ミーティングや職員会議時に意見・要望を出し、それを話し合い改善につなげることが多々ある。例としては掃除の時間帯や年間計画の作成や菜園作付要領やテーブルの配置等があり、また日頃の業務においても、その都度申し送り帳等に記入し、些細なことでも全員で共有し、ケアの向上に繋げている。	確実なケア業務を共有し維持向上させるために様々な日誌・ノート(業務日誌・職員連絡・申し送り・家族連絡・ケース記録・水分排泄記録)などを毎日記録されているが、内容が重複していることが考えられる。機会を見て職員・管理者全員で検討してみたいことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護福祉士資格取得や外部研修への参加を勧めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の新人研修参加や、新規職員へは1か月ぐらい指導職員と共に勤務し指導している。外部研修に参加した場合は、内部研修で伝達することで、本人の力をアップするように働きかけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国認知症協会、岩手県グループホーム協会、花北ブロック定例会に参加し、研修交流を図っている。施設ごとの交換研修で意見交換、質の向上に繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の声や表情、行動等から困っている事や不安な事を一早く察知し安心出来るよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族の話を聞き、本人の状況や家族の不安、要望を聞きとり、利用者の受け入れ体制を整え、信頼作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅での様子を聞き、本人と家族の実情を把握し、必要に応じてすぐ対応出来る様に介護サービス等をお知らせしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	茶碗ふき等本人の出来る事をやっていただいたり調理方法など昔の知恵を教えていただき、人生の先輩として尊敬を持ち、暮らしを共にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に現在の様子を伝えたり、自宅での以前の様子や思い出を聞き、情報共有し支援に繋げている。面会時は、自室にて家族と一緒に過ごす時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	普段の会話に本人の家族の名前や地名を話題にしている。自宅やなじみの理容室への外出を勧めている。	時には母体の特養利用者に知人・夫がいて時折訪ねてきてウッドデッキで会話を楽しまれてる方もいる。また毎月のように家族が自宅に連れていく機会も作っている。普段の会話で、家族の名前や地名を話題にして賑やかに会話を楽しまれてる方もいる。急に里心が出て帰りたがる方もいるが、自宅に電話されたりして安心されることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブル席の利用者の席でコミュニケーションを取りやすい環境作りに努めている。一緒にレクレーションをする時間を設けたり、共通の活動やDVDによる歌番組の活用で楽しんで頂いている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(一丁目ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に移った利用者の情報提供や行事の際の面会、グループホームでの生活の様子の伝達を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から希望を聞いたり、行動や表情から思いを汲み取り、対応を職員で話し合い統一した支援に努めている。	主として利用者の担当職員が、本人から希望を聞いたり、表情や言葉から真意を推し量ったり、それとなく確認するようにしている。本人にとって、誰と、どのように暮らすことが一番良いのか、家族を交え、検討することもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に昔の事を尋ねたり、写真やなじみの物を持ってきていただき自室に置いている。また、会話から昔の事を聴き出し、好みの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の流れ、変化をケース記録、申し送り等で把握し、職員間で共通の対応が出来る様に心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の要望を聞き、職員で検討し、ケアプランを作成し、モニタリングして次のプランに反映させている。	本人や家族には、日頃のかかわりの中で思い・意向を聞き、全職員で定期的にモニタリングを行いプランを作成している。特に変化がなければ見直しは半年に一度行うが、臨機応変に対応している。家族には毎月連絡し、意見要望を頂き、次のプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、水分摂取量チェック表、連絡ノートで確認し、情報共有している。また月のまとめで見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望により、外出を勧めている。通院の付き添いや送迎は、家族の状況に応じて支援している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(一丁目ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域子供会との交流、地域消防団の協力による防災訓練を行っている。祭りの御輿も来訪して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者それぞれのかかりつけ医への家族との通院と受診内容の伝達、母体特養の嘱託医による回診を受けている。	利用者全員かかりつけ医を持ち、一覧票を用意し、常に利用者の状況を報告し連携を図っている。週一回の協力医による往診はその都度状態の良くない利用者のみ診ていただいている。通院は家族同行となっているが、不可能のときは職員が代行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体の特養の医務室看護師が24時間体制であり、緊急時は夜間でも相談できる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供、入院中の家族との連携による退院後の支援を行っている。必要に応じて、入退院の送迎も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族に重度化後の対応について確認し、母体の特養への入所が多いので担当職員と連携をとり、情報共有している。終末期への対応についても、必要に応じて学習会を行いチームで支援出来る様に配慮している。	入居時に本人や家族の意向を踏まえ、医師・職員が連携をとり安心して納得した最後を迎えられるように意思確認をしながら取り組んでいる。現在1丁目利用者の中で1人対象者がおり、訪問医療を受けている。一般に重度化の際は特養への希望者が多い。従って担当職員との連携をとり、情報の共有に努めている。当ホームでは入浴が無理と判断したらグループホームでの生活は難しいと考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	学習会や母体施設での実技講習会への参加で知識、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画に基づき、定期的な訓練を地元の消防団や母体特養の職員の協力で行っている。備蓄食品(3日分)も常に揃えている。市からの防災ラジオで緊急情報の収集も出来る様になっている。	消防団や母体特養職員や地域住民(4名)の協力で行う訓練と事業所単独訓練を合わせて年5回実施している。119番通報により、地域民(4名)まで連絡可能。大地震時への対応で落下物や倒壊しやすい家具類の点検も行う。また一時避難場所や地域応援隊の役割も話し合い検討している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(一丁目ユニット)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に人生の先輩と意識し、尊敬の心を持って、言葉遣いに十分配慮し、一人ひとりの目線に合わせてケアしている。研修を行い、プライバシー保護を確認している。	援助が必要なときも、本人の気持ちを大切に考えてさりげないケアを心がけたり、自然に自己決定しやすい言葉かけをする様に努めている。毎朝唱和している理念の「尊厳」を全職員心に刻み、ホーム内(両ユニットとも)穏やかでほのぼのとした明るい雰囲気を漂わせている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	誕生日には本人の選んだ食事を提供している。母体特養のバイキングでは、食事の選択を行っている。衣類は本人の好みの物を選んでいただいている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその日の体調や気分で、ソファで過ごしていただいたり、自室で過ごしていただくなど、本人のペースを尊重している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪を切った時や、季節にあった服装をしている時は本人のうれしくなるような声かけをしている。また、本人のなじみのエプロンを使用している。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜栽培やシソの葉等、季節を取り入れたり、本人が今まで自宅でやっていた仕事(茶碗ふきやテーブルふき)をやっていただき、楽しみを持っていただいている。	お腹が空かなくて少し残食された利用者にも、「夕飯はおいしく食べようね」と優しい笑顔で対応された姿が印象的である。前庭にあるプランターでつくった野菜(トマト・茄子・きゅうり)等を調理し、食の楽しみに繋げている。両ユニットとも隣接の特養と同じメニューで、時々ウッドデッキで野外の食事を楽しんでいる。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取チェック表で摂取量を確認し、不足しないように水分を確保している。夏は特にこまめに水分補給を行っている。毎月体重測定を行い、カロリー摂取の多い方は、ご飯の量で調整している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年1回の歯科検診の実施と、毎食後の歯磨きの徹底の為、見守り、声かけ誘導、義歯洗浄、口腔内の確認を行っている。夜間は義歯洗浄剤を使用し清潔保持している。口腔ケア研修会で正しい歯磨きについて勉強している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(一丁目ユニット)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分、排泄チェック表にて個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。尿意の訴えない方は、本人の行動を見て誘導し排泄につなげている。	トイレでの排泄を大切に、排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも、さりげない誘導支援をしている。全職員、利用者一人一人のサインを把握し習慣やパターンに応じた支援をされている。デイサービスでトイレ使用ができなかった利用者が見事に当ホームでトイレ排泄可能になった経緯がある。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のミーティングや連絡表で排泄状況の確認を行い、便秘の方は朝のヨーグルトや個人のコーヒー等で排便を促している。下剤の調整や体操を取り入れ便秘予防している。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のペースに合わせて入浴の順番を調整している。プライバシー保護の為、カーテン使用している。本人の拒否や外出後の場合は翌日に入浴して頂いている。本人の好みの湯加減や入浴後疲れやすい方は自室で休んでいただく様にしている。	入浴時間は行事のない日は午後の2～3時頃で1日おきの入浴となっている。バイタルチェックは毎日10時ごろ行う。職員が一方的に決めず、利用者の希望を確認して、時間をズラしたりして入って頂いている。職員はくつろいだ雰囲気をつくり楽しい入浴タイムにすることを心がけている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後、自室やソファで休んで頂くことが習慣になってる。日中の体操や日光浴等で夜間の安眠を促している。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとり薬箱を分けてる。配食の準備者と投与者をわけ誤薬防止を図っている。新規の薬は医療連絡ノートに記入し職員全員が把握できるようにしている。処方箋は個人ごとに管理し歯科通院時等に活用している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	体操や日光浴、季節の歌唱レクリエーションで楽しんだり、DVDで好きな歌手のショーを観たりしている。洗濯たたみや茶碗ふき等の仕事で張り合いを持っていただいている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	バスハイクや散歩で外に出る機会を作っている。家族の支援で自宅に帰っている方もいる。	ホームの内外から眺められる恵まれた四季折々の景色を楽しみながら敷地の散歩や両ユニット前面にある花壇の草取りやプランターの手入れなどを行っている。月一回のバスハイクや隣接の特養での演芸会参加などには家族にも参加されるように呼びかけている。

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームおおたに(一丁目ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持ち、中身を確認して安心しているので見守りしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	定期的に電話をくださる家族との会話を楽しまれる方やこちらからのメッセージカードへの返事が来て部屋に飾っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花や花壇の花を見ていただく。室内は夏はクーラー、冬は暖房と加湿器で心地よい環境を調節している。空気の入れ替えや風を通す事で季節を感じて頂いている。	採光の良い居間の外側には両ユニット(1丁目・2丁目)ともウッドデッキを設け、その周りには工夫された花壇やプランターがあり四季折々の風景が楽しめる。両ユニットに通じる明るく広い廊下の横面に(10m・20m・30m)のメーター印があり、思わず屋内ウオーキングがしたくなる。それぞれ畳の小上がりを設け(片方は移動式)うまく活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや座敷の上り口等好きなところに座っていたできるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力で本人の使い慣れた物やぬいぐるみを置いたり、写真を飾ったりして自室と認識出来るよう支援している。	広い廊下の両側に18の居室があり、そのうち4室にはトイレが付いてある。入り口には部屋を間違えない様に利用者の顔写真が貼ってあり、居室の中は約5畳ほどの広く明るいフローリングになっており、すっきりして、非常に清潔感にあふれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の名札を大きめに作ったり、浴室ののれんやトイレの位置がわかりやすいような大きな表示をしている。		